

## 沿岸域の高齢者福祉施設における外国人介護者に関する研究

- 愛知県・静岡県・神奈川県の高齢者施設を対象調査として -

A Study on Foreign Caregivers in Welfare Facilities for the Elderly

- Targeting facilities for the elderly in coastal areas of three prefectures -

○西原秀稀<sup>1</sup>，山本和清<sup>2</sup>

\*Hideki Nishihara<sup>1</sup>，Kazukiyo Yamamoto<sup>2</sup>

Abstract: A survey was conducted on nursing care facilities in the coastal areas of Aichi, Kanagawa, and Shizuoka prefectures with the aim of clarifying the problems caused by differences in nationality, language, culture, religion, etc. between foreign caregivers and those in need of long-term care. As a result, it was found that there is a language barrier between foreign workers and those in need of nursing care both during nursing care and in the event of a disaster. Therefore, it is necessary to acquire knowledge of terms in nursing care and in the event of a disaster.

### 1. 研究背景

我が国では、現在少子高齢化が進行している。さらに、50歳以上の人口が総人口の半数近くを占めている。総人口に占める割合（高齢化率）は、35.3%である。介護において、現在65歳以上の中で要介護又は要支援の認定を受けた高齢者は、670万人である。2022年では、日本全国の介護職員は、215万人であり、2026年では、約270万人が必要となる。介護職員が現在から増加しない場合、約57万人不足することになる。我が国では、介護職員を増やすために、外国人介護者の受け入れをしている。外国人介護者は、2022年は、16,801人、翌年2023年では、28,400人である。1年間11,599人増加している。外国人介護者の受け入れが多くなっている傾向にある。しかし、国が異なるによってお互いに意思疎通が難しく日本人介護者と比較すると数多くの問題点がある。

### 2. 研究目的

本研究では、愛知県、静岡県、神奈川県の沿岸域に所在する高齢者施設を対象とし、外国人介護者と要介護者にある、国籍による違いによって生まれる、介護活動と地震時避難誘導の問題を明らかにして、これからの外国人介護者による日本での介護貢献の一助となる知見を得ることを目的とする。

### 3. 研究方法

#### 3-1. 調査対象地

本研究では南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されているかつ外国人介護者が多く勤めている愛知県34か所、静岡県36か所、神奈川県36か所の沿岸域に所在している市区町村の高齢者施設を対象とする。

#### 3-2. 調査概要

対象高齢者施設に勤務する、責任者、外国人介護者と利用者数である要介護者に対し、アンケート調査を行う。調査の概要をTable1に示す。

Table 1. Outline of the questionnaire Survey

調査対象	愛知県・静岡県・神奈川県の沿岸域に所在する高齢者施設
調査方法	郵送によるアンケート調査
調査内容	沿岸の福祉施設に勤める外国人在留者の介護に関するアンケート
回収状況	責任者 36/100 (36%) 外国人介護者 42/100 (42%) 要介護者 38/100 (38%)
有効回答数	責任者 31/100 (31%) 外国人介護者 40/100 (40%) 要介護者 38/100 (38%)

### 4. 調査結果及び考察

#### 4-1. 外国人介護者と要介護者との関係性について

外国人介護者と要介護者お互いに介護の間に起こる問題についてのアンケートを実施した結果、「あなたが介護者として働く中で難しいことはありましたか」という問いに対して、「発音が聞きにくい」「知らない言葉があり理解できないことがある」の言語に関する問題が一番多くの回答を得られた。理由としては、「認知症や歯がなく発音が聞き取れない」「方言による訛りがあり理解できない」の回答が得られた。また、「イスラム教での1日5回の礼拝を行うことに支障が出る」などの宗教に関する問題や「記録を書くのが当初難しかった」などの介護業務に関する問題の回答を得られた。それぞれの回答をFigure 1に示す。そして、要介護者に対して、「あなたが外国人介護者からの介護を受けている際に不便に思ったことはありますか」の問いに対しては、「言葉が通じない場合がある」などの言語に関する回答が多くあった。また、「気持ちを理解してくれなかった」「私用のお話し合いを拒否された」などの要介護者との交流問題にも回答をしていた。それぞれの回答をFigure 2に示す。しかし、「あなたは、外国人介護者の介護に満足していますか」の問いに対しては、

1：日大理工・学部・海建 2：日大理工・教員・海建

「満足している」の89.4%が回答であった。外国人介護者の介護に対して、前向きな回答を得られた。その中に、「常に優しく笑顔で対応してくれる」「国が違うのにも関わらず常に一生懸命頑張っている」の回答があった。以上のことより、外国人介護者と要介護者には、それぞれに言語の壁が生じている。しかし、外国人介護者における、介護の満足度が高いことから、外国人介護者が要介護者との間にある言語の壁を超えた、外国人介護者ならではの、介護に向けた性格、人間性があるからではないかと考える。

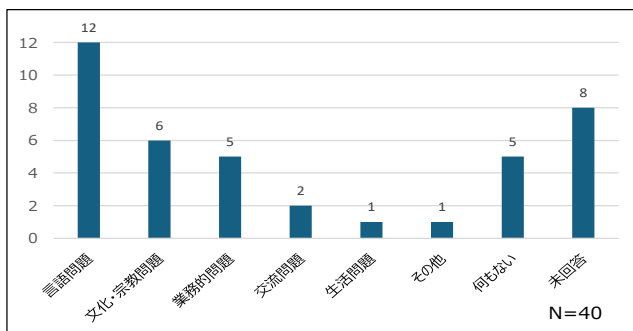


Figure 1. Graph about difficulties in working a caregiver

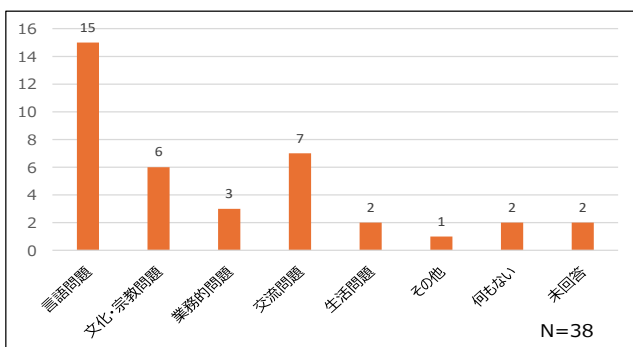


Figure 2. Graph about inconveniences for caregivers or foreign caregivers

#### 4-2. 外国人介護者による地震時の避難誘導について

「外国人介護者が地震発生後における津波発生の可能性についているか」の問いに対してが「把握している」との回答で、92.6%であった。また、介護施設の避難訓練により、避難方法も認知をしていた。「避難訓練時に外国人介護者と要介護者の間にどのような問題が発生したか」の問いについては、「避難時に出てくる日本語が分からない」「避難時の情報取得の音が聞き取りにくかった」などの回答が得られた。また、「津波発生時、避難誘導について不安はありますか」の問いに対して、「不安」の回答が77.5%であった。この割合をFigure 3に示す。不安と思うのは、災害による知識が足りていないからなのではと考える。

責任者のアンケートも外国人介護者が、津波が発生し、避難が必要な場合に、複数人いる要介護を的確に

誘導及び補助できるかについて「不安」と答える回答もあった。また、「福祉施設の従業員だけでは、足りないこともあり、近隣住民と協力を行う際の外国人介護者が地域住民と円滑にコミュニケーションできるか心配」「夜間勤務時に災害が発生した際に介護職員が少ない中、外国人介護者を援助できるかどうかかわからず不案である」と回答を得られた。結果より、沿岸域

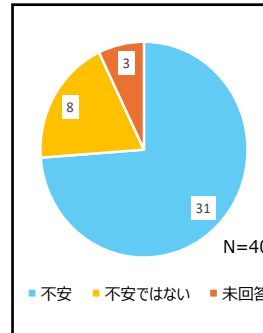


Figure 3. Graph on whether or not there is anxiety about evacuation guidance

の高齢者施設に勤務する外国人介護者は、自らの不安をなくし、要介護者を安全に避難誘導、補助を行うために災害に対する知識と災害時に使われる用語の学習が必要だと考える。

#### 5. まとめ

本研究では、沿岸域の高齢者福祉施設に勤務する施設責任者、外国人介護者、また外国人介護者の介護を受けている要介護者を対象に、アンケートを用いた調査を行った。本研究で得られた知見を以下に示す。

①外国人介護者は、要介護者に「常に優しく笑顔で対応してくれる」「国が違うのにも関わらず常に一生懸命頑張っている」。異なる介護に向けた性格、人間性がある。障壁を越えて要介護者の外国人介護者に対する満足度に繋がっている。

②避難誘導に外国人介護者は不安である。避難誘導における不安を取り除くため、災害時に使う用語また、災害に対する知識を取得する必要がある。

今後も、外国人介護者と要介護者に生じる問題をさらに見つけ出し外国人介護者の一助となる知見を得るために、ヒヤリング調査を行いたいと考える。

#### 【参考文献】

- [1] 厚生労働省：「外国人介護人材の受入れの現状と今後の方向性について」、2024年3月  
<https://www.mhlw.go.jp/content/12000000/001240343.pdf#:~:text=%E4%BB%8B%E8%A%DB7%E5%88%86%E9%87%8E%E3%81%AB%E3%81%8A>
- [2] 厚生労働省：「介護分野の最近の動向について」、2023年5月24日,  
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001099975.pdf#:~:text=%E8%A6%81%E4%B8%B8%E8%AD%B7%E5%BA%A6%E5%88%A5%E8%AA%8D>
- [3] 内閣府：「南海トラフ地震防災対策推進地域指定市町村一覧」、2014年3月28日  
[https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/pdf/nankaitrough\\_shichouson.pdf](https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/pdf/nankaitrough_shichouson.pdf)
- [4] 内閣府：「令和3年度 高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況」、2021年  
[https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/2021/zenbun/03pdf\\_index.html#:~:tex%20t=%E9%AB%98%E9%BD%A2%E5%8C%96%E3%81%AE%E7%8A%B6%E6%B3%8](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/2021/zenbun/03pdf_index.html#:~:tex%20t=%E9%AB%98%E9%BD%A2%E5%8C%96%E3%81%AE%E7%8A%B6%E6%B3%8)
- [5] 飯田貴映子・酒井郁子、「高齢者長期ケア施設における外国人看護職・介護職の就労の現状と課題」、文化看護学会、4巻1号、p. 1\_3-1\_12、2012年3月12日、  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/bunkakango/4/1/4\\_1\\_3/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/bunkakango/4/1/4_1_3/_pdf/-char/ja)